Kyoto Institute for Regional Prospects

KIRP

NEWS LETTER

vol. 2

KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP ： http://www.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学内教養教育共同化施設
「稲盛記念会館」１階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
（KIRP）

これからの地方自治・地方政策を考える　連続自治体特別企画セミナー

第２回KIRPセミナー

お知らせ

フロー型社会からストック型社会へ
～資源の有効活用を考える産業エコロジー学からのアプローチ～

9月15日（金）１５:００～１７:１５（受付開始 14:30）

場所　京都府立大学下鴨キャンパス内
教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」１０４講義室

講師　山末 英嗣 氏（立命館大学理工学部機械工学科 准教授／循環資源・材料プロセス研究室）
堂坂 健児 氏（本田技研工業株式会社 日本本部 地域事業企画部 環境推進課）

コーディネーター
宮藤 久士（京都府立大学大学院生命環境科学研究科 環境科学専攻 森林資源循環学研究室 教授）

大量生産・消費・廃棄に象徴されるフロー型社会に対するものとしてストック型社会が提示されています。資源小国の日本が既存の物質ストック、すなわち都市鉱山*を有効に活用するためには、どのような物質がどの程度社会に蓄積され、将来にわたって廃棄物として発生し、また、資源として利用することが可能であるかを明らかにすることが重要です。そこで有効となるのが、産業エコロジー学という新しい研究領域です。エコロジーとは生態学のことですが、産業エコロジー学では社会における種々の産業内、あるいは産業間におけるエネルギーやモノの流れを可視化し、社会的な病理箇所の発見、その解決策（技術開発、政策等）を提示することが可能になります。今回の講演では、産業エコロジー学によって見える資源利用の新しい視点を紹介します。

※詳細・お申込はKIRPのホームページ・Facebookをご覧ください。

都市鉱山とは、携帯電話や家電製品に含まれる希少金属を採掘可能な資源と捉え総称する言葉。

公開講座

桜楓講座（春の部）を開催しました

報告

公開講座「桜楓講座（春の部）」を6月10日（土）と24日（土）に開催しました。

6月10日は「ダチョウに魅せられて」と題して、生命環境科学研究科の塚本康浩教授にお話しいただきました。ダチョウの卵から、優れた抗体を低コストで大量に作り出し、インフルエンザやMERSといった世界的な感染症から、花粉症、アトピーなどの身近な病気まで、さまざまな病気の治療や予防法を開発する研究をされています。講座では、実際の研究の苦労や成果について、映像を多数交えて紹介され、ダチョウ抗体の可能性を感じました。

6月24日は「平安京での海外使節のおもてなし～古代日本・渤海関係と鴻臚館」と題して、文学部の井上直樹准教授にお話しいただきました。渤海は、平安時代に日本に正式な外交使節を派遣していた、現在の中国東北地方から朝鮮半島にあった国です。その渤海の使節団が日本海を渡って京都に到着した際には、現在の千本七条にあった鴻臚館で、天皇との謁見や官僚たちとの宴などが行われました。講座では、さまざまなおもてなしの実態やそこで繰り広げられた日本と渤海の文化交流について解説があり、現代にも通じるような国際関係や使節団と役人たちのやりとりが活き活きと伝わってきました。

講座後は、質問も多数あり、各回130人をこえる多くの方に熱心に受講いただきました。

共催企画

地方創生実践塾in京都（宇治田原町、精華町、和束町、南山城村）

報告

去る５月２６日～２８日、本センターとしては２回目となる「地方創生実践塾」（主催：地域活性化センター）を実施しました。今年度は「お茶の京都」をキーワード（正式には「地域資源活用と教育機関連携による地方創生の実際～学研都市・お茶の京都・大学と地域との連携～」）に府南部の複数の自治体にまたがる組み立てとしました。参加者は、北は青森、南は鹿児島から約３０名の方にご参加頂きました。

本年度のポイントは以下４点あったように思います。まず第１点は、国・府・市それぞれの立場からの「学研都市・京都」の取組みを知って頂けたこと。２点目は、日本の地方自治（政治）リードして来られた北川正恭・早稲田大学名誉教授の考えに触れられたこと。３点目は、同じ「お茶の京都」でも、細かくは色々と資源が違い、力を入れるポイントや魅せ方などに「戦略的差異」があることを知って頂けたこと。４点目は、府大（特に精華キャンパス）を事例に地域と大学との連携の実際を知って頂けたことです。

そして、今回のプログラム全体を通じて、何より実感したのは「一緒でバラバラが良い」ということ。地方創生のキーワードは「多様性」であり、やはり「地域」創生の視点が重要ですね。　【文責】杉岡秀紀（センター特任准教授）

主な参加者の声

- 大学と自治体との連携が大変参考になった。地域からみても、大学の研究力を地域の魅力に応用できるのは非常にありがたいことだと思う。研究から生まれた技術を住民の暮らしに応用できている点が印象的だった。
- 首長、各担当者のお話を聞き、仕事に取り組む姿勢・考え方を学ぶことができ参考になりました。
- 写真でしか見たことのない和束町の景観を見ることができてよかった。生業の景観は地元にもあるので、今回学んだことを今後活かしたい。

産学連携リエゾンオフィスだより

お知らせ

本年４月から、本学の産学連携機能を強化するべく、「産学連携リエゾンオフィス」が開設されました。リエゾンオフィスは、本学の研究成果を広く社会に向けて発信するとともに、共同研究、受託研究などの産学公連携の取り組みを推進していく機能を担っております。これまでにも、本学では産学公連携について積極的に取り組んできており、最近の成果として“桂うり”を原料とした新しいスイーツであります「桂うりスムージー」の開発や、“洛いも”を原料とした焼酎「洛いも焼酎　精華の夢」の開発に成功しております。いずれも本学教員が、地域の自治体や企業などと連携して研究開発を行ったものであります。

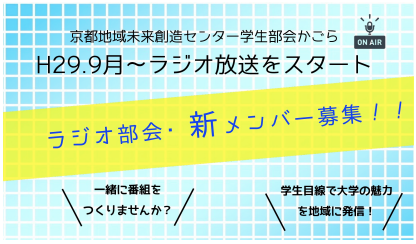
さらなる産学公連携の推進に広く役立てていただけるように、本学の研究シーズ集を本年５月に一新いたしました。内容につきましては、本学のホームページにてご覧いただけます（http://www.kpu.ac.jp/cmsfiles/contents/0000001/1659/seeds.pdf）。自然科学、社会科学を問わず、本学教員の研究成果や内容が解説されておりますので、ぜひ多くの皆様にご活用いただければと願っております。よろしくお願い致します。

京都地域未来創造センター
産学連携リエゾンオフィス副所長　宮藤　久士

KIRP学生部会「かごら」ラジオ放送をスタートします

京都地域未来創造センターの学生部会「かごら」（旧地域連携センター学生部会）は、地域と大学をつなぐ架け橋として、月に１回大学で開催するコミュニティカフェ「かごらカフェ」を中心とした様々な活動を展開しています。

この度、かごらでは、大学の魅力等の情報を地域に発信するラジオ放送をスタートすることになりました。今年９月の放送開始に向け、番組づくりを進めます。



現在、ラジオを担当するラジオ部会メンバーを募集中です。本学学生でご興味のある方は、京都地域未来創造センター（kirpinfo@kpu.ac.jp）までご連絡ください＾＾